

学校読書活動の取組【城陽市立城陽中学校】

1 実践の見出し

「読書習慣の確立と読書力向上のための学校図書館の充実を目指す取組
—生徒相互の読書啓発活動を中心に—



2 学校の概況や児童生徒の様子等

城陽市の中心に位置し、周囲には公共の施設や商店、飲食店なども集中している。校区には、古くからの町並みと新興の住宅地が混在する。保護者や地域住民の教育に対する関心は高い。生徒も落ち着いた学校生活を送っているが、学習を苦手とする生徒も多い。また、生徒同士の間関係の希薄さが見受けられる。そのため、「人とつながる力」や豊かな感性を育むことが必要である。令和4年度は特別支援学級2学級を含む14学級で、在籍生徒数は405名である。

3 実践内容

(1) 学校図書館運営の企画・立案

ア 図書を更新

図書の購入にあたっては、生徒・教員からのニーズに応じることを目指した。まず図書室にはリクエストボックスを常設し、生徒が自由に希望できる体制をとった。

生徒のリクエスト本は可能な限り購入し、例年とおりに図書だよりで周知した。さらに、どうしてもリクエストから入荷までタイムラグが生まれるため、今年度は連絡カードを個別に配布し本の入荷を生徒に周知した。

また、1人1台のタブレット端末を活用し、選書会を行った。生徒に自由記述でリクエストを募り、図書購入の参考にした。例年より多くの生徒から意見を募ることができ、図書室への関心を喚起する機会ともなった。

教員に対しては図書のカatalogを回覧し、自分の担当教科や担当学年で授業活用できるような図書を選定することができた。

【1】図書室に入れてほしい本を教えてください。
(本のタイトルやジャンル)

--

0/10000

【1】図書室に入れてほしい本を教えてください。
(本のタイトルやジャンルを書いて下さい)

図書一覧
英語の簡単な本
ミステリー
医療系 恋愛系 アニメ系 映画系
野球の本や卓球の本

イ 推薦図書の選定

学年ごとに推薦図書を選定している。中でも特に推奨したい本を各学年3冊ずつ選定し、「城中生必読書」と位置づけた。複数蔵書の図書は、各学級の学級文庫への支援にも活用した。

ウ テーマ展示の実施

図書室の入り口付近のよく目につく場所に、別置コーナーを設置している。1ヶ月ごとにテーマを設定し、関連する図書を紹介する。テーマは学校行事や学習内容にあわせて設定しており、今年度は映像化された作品の展示や、図書の「帯」をテーマにした展示、国語の教科書に掲載された作品や作者に関する展示などを行った。また、テーマ展示以外に、カウンター横や書架の上にも別置コーナーを設定しており、本の「顔」である表紙をより多く見せられるよう工夫を行っている。



(2) 学校図書館の授業活用

ア 国語科での活用

1年生では、入学時に図書室のオリエンテーションを行った。実際に図書室で紹介や利用の説明を行い、1人1冊の貸出を行った。現在も図書室の利用が続いている生徒も多い。

2年生では、授業内でビブリオバトルを実施した。生徒のふり返りでは、授業での紹介活動を通して読書への関心が高まった、久しぶりに図書室へ行った等の感想が見られた。

3年生では、読書感想文コンクールの指導を図書室で行った。読書が不得意な生徒への支援となるだけでなく、他の生徒にとっても多くの図書にふれる機会になったと考えられる。

(3) 生徒の読書活動に対する指導

ア 朝の読書

毎朝、朝学活前の15分間を「朝の読書」として設定した。読書習慣がない生徒もいるが、学校全体で雰囲気づくりに努めた。この時間に読んだ図書が、読書感想文やビブリオバトルにつながる生徒も多い。

イ 図書だよりの発行

図書室の情報発信、読書啓発のために、月1回のペースで図書だよりを発行している。新着図書や読書感想文コンクールの課題図書、学校図書館司書のおすすめ本の紹介などを主に掲載した。また、前述のテーマ展示についてもこの図書だよりで周知している。図書室への来室が少ない生徒にも情報を発信することができた。

ウ 学級文庫への支援

各学級には、担任や学年所有の図書が設置されており、生徒が自由に読書することができ、朝の読書にも利用される。図書室に足が向かない生徒にとっては、最も身近な図書だと言える。その充

実のため、学校図書館からも支援を行った。学校図書館司書選出の5冊と、学級の図書委員が5冊ずつ選出した図書の貸し出しを行った。この図書はおよそ2ヶ月に1回更新を行っている。また、城陽市立図書館からの巡回図書もあわせて配置することで、多様な図書を身近に配置することができた。



エ 委員会活動

①読書啓発ムービー

図書委員会では、主に読書の啓発活動を行った。まず、読書啓発ムービーの作成である。図書委員が月に一度企画、出演し、図書室の利用方法や新書の紹介、読書感想文におすすめの本などのテーマで動画を作成した。各月のテーマは右のとおりである。動画は各学級で給食時間に上映した。これまでも図書日より同様の紹介は行ってきたが、一斉に周知できること、動画であるために多様な伝え方ができ、内容が伝わりやすいことで非常に効果的であった。

- | | |
|-----|--------------------|
| 5月 | 図書室紹介、図書分類法について |
| 6月 | 各書架と、書架ごとのおすすめ本紹介 |
| 7月 | 読書感想文に向けた、おすすめの本紹介 |
| 10月 | ジャンル人気アンケートの結果について |
| 11月 | 図書室のマナーについて |
| 12月 | 教科書に出てくる作者の、他作品の紹介 |

②ポップカード

紹介ポップカードの作成を行った。自身のおすすめの本を絵なども交えながら紹介を行った。読書週間にあわせて全校に掲示する等、多様に活用することができた。



③本のジャンルアンケート

年度当初に、「好きな本のジャンル」のアンケートをとった。前述の読書啓発ムービーやポップカードで紹介する図書を考える材料とした。結果は右のとおりである。1位がノベライズ、2位がホラー、3位が恋愛、という結果である。やはり「読みもの」が人気だということが改めて示された。この結果を受け、以後の委員会活動は、人気のあるジャンルの本をアピールすること、また焦点が当てられにくいジャンルの本を積極的に紹介していくことを意識して行われた。



本のジャンルアンケート
～結果～

1位 ノベライズ (ハイブリッド)	8位 伝記 (歴史・人物)
2位 ホラー (70年代)	9位 生物 (動物)
3位 恋愛 (50年代)	10位 科学 (科学)
4位 ファンタジー (10年代)	11位 歴史 (世界)
5位 ミステリー (各年代)	12位 自己啓発 (自己啓発)
6位 エッセイ (大衆)	13位 ドキドキ (児童)
6位 スポーツ	

(4) その他の取組

ア 公立図書館との連携

市立図書館からの巡回図書を積極的に活用することで、限界のある学校図書館の蔵書を補っている。学級文庫への支援を中心に利用した。

イ 各種コンクールへの出品

「第 68 回青少年読書感想文京都府コンクール」には全校を挙げて取り組んだ。事前指導で図書室を活用した学年もあり、学校図書館の図書を使って感想文を書く生徒も多かった。自分の意見をもって読書することを改めて意識するきっかけになった。

4 成果と課題

(1) 成果

生徒相互の読書啓発活動を中心に、読書習慣や読書力の向上を図った。元々、読書習慣の希薄な生徒達にとって、教師等の大人から読書をするよう勧められても効果が薄く、むしろ同年代の友人という身近な存在から図書や読書を勧められることが有効だと考えたためである。

そのため、特に力を入れたのが委員会活動である。本好きが多い図書委員が図書を紹介することで、他の生徒が本を手にとりやすくなったと考えられる。図書委員会による読書啓発ムービーは今年度から行った新しい取組だったが、黙食の時間も相まって多くの生徒にアプローチすることができた。生徒の読書量の増加や、読書する図書の幅を広げることに寄与したと考えられる。本を進んで読む生徒だけでなく、読書とあまり縁の無かった生徒の読書にも関与できたことにも大きな意義があった。やはり動画という形態が生徒にとって親しみやすく、効果的なものであると実感された。

また、生徒や教員の希望を反映した新書購入を行った。特に、タブレットを使用して行った選書会は、従来の選書会よりも手軽で、さらに幅広く意見を集めることができた。

(2) 課題

前述のように読書量や読書に対する意識については向上が見えたが、今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果を見てみると、本校3年生の読書量や読書習慣の課題は顕著であった。調査当時の数値ではあるが、やはり今なお低いことが予想される。そういった生徒たちにどうアプローチしていくのか、今回の生徒相互の活動だけでなく学校、地域全体を挙げて継続的に取り組んでいくべき課題であることは明らかである。

今回は学校図書館の機能のうち、「読書センター」としての機能に焦点を当てたが、もちろん他の2つの機能についてもより活発にしていく必要がある。タブレットを用いてインターネット検索することが容易になっているが、図書にしかない役割を生徒が理解し使い分ける力を身につけさせなければならない。また、図書館の授業活用は少なく、「学習センター」としても十分に活用できたとは言えない。学校図書館を多岐にわたってどう活用していくか、検討が必要である。